

共同声明（仮訳）
第10回ASEAN+3（中、日、韓）エネルギー大臣会合
2013年9月、インドネシア・バリ

導入

1. 第10回ASEAN+3（中、日、韓）エネルギー大臣会合（AMEM+3）が2013年9月25日にインドネシア、バリで開催された。会合では、インドネシアのジェロ・ワチック大臣が議長を務め、中国の国家エネルギー局長 呉 新雄（ウー・シンション）の代理である、ヤン・クン国家エネルギー局チーフエンジニア、日本の赤羽 一嘉経済産業副大臣、および韓国の韓 珍鉉（ハン・ジンヒョン）産業通商資源部第2次官が共同議長を務めた。また、会合には、ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、ミャンマー、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイおよびベトナムのエネルギー大臣が参加した。
2. 大臣は、原子力の安心・安全な利用とその環境への影響を含む、東京電力福島第一原子力発電所の事故から学び蓄積された知識と教訓を、日本が引き続き国際社会と共有することを奨励した。大臣は、中東の不安定な地政学的状況、またそのエネルギーセキュリティへの影響が進展する中、増大するエネルギー需要を考慮し、地域のエネルギーセキュリティや環境持続性への懸念を認識した。大臣は、エネルギーセキュリティや持続性のあるエネルギーの将来に向けてASEAN+3エネルギー協力へのコミットメントを強化することに合意した。
3. 大臣は、エネルギー協力の連携改善の必要性を認識し、ASEANのコネクティビティを強化することが十分なエネルギー安全保障を達成するという目標に地域を近づけるということに合意した。大臣は、高級実務者会合（SOME+3）による進捗に謝意を表明した。大臣は、関係各国間における人材育成、情報共有と交換が、持続可能な発展と低炭素成長経済を促進する鍵であることに留意した。

エネルギーセキュリティ

4. 大臣は、エネルギーセキュリティにおいて、特に、民生用原子力エネルギー、石油備蓄、クリーンコール技術を含む、地域の可能なエネルギーの選択肢を研究するため、関係者の協力が重要であることを認識するとともに、その活動が着実に進捗していることを歓迎した。これに関して、大臣は、ASEAN+3エネルギー協力の一つであるエネルギー・セキュリティ・フォーラムをリードする日本に謝意を表明した。
5. 大臣は、韓国の民生用原子力エネルギー（CNE）の人材育成開発のフェーズ2実行計画の進展や域内の原子力エネルギー分野における人材育成を強化する、日本の核不拡散・核セキュリティ総合支援センター（ISCN）の活動状況を歓迎した。大臣は、核セキュリティを強化する上で、各国の規制の枠組みにおける国際協力や経験が共有された、ACEと日本原子力研究開発機構（JAEA）による、原子力の平和利用、核不拡散と核セキュリティに関するセミナーが2013年6月4-5日にベトナムで開催されたことを留意した。大臣は、さらに、ISCN

の活動として、核物質及び核施設の物理的防護に関する地域トレーニングコースが2013年7-8月に、核物質及び核施設物理的防護における核セキュリティーの実施に関する地域トレーニングコース(INFCIRC/225/Revision 5)が2013年8月に、また保障措置・国内計量管理制度に関する国際トレーニングコースが2013年11月に開催されることを留意した。大臣は、JAIF 国際協力センターによる国際原子力開発における人材育成の活動も認識した。

6. 大臣は、石油備蓄において、2013-2014年の以下フォローアップ活動計画を歓迎した。(a) ASEAN+3 メンバー各国の石油備蓄の発展への要望に関する質問票の集計結果の取り纏め、(b) アセアン各国の石油備蓄状況の詳細評価の実施(カントリーレポート)、(c) 共同研究を通じた国家レベルの石油備蓄開発に向けたガイドラインの策定、および、(d) ASEAN 石油セキュリティー協定(APSA)における石油備蓄ロードマップの効果に関する、ASCOPE との共同研究の実施。大臣は、アセアン・エネルギー・センター(ACE)と日本の石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)による、2013年3月11日に韓国で開催された、石油備蓄の開発におけるプロジェクト実施前および決定段階をテーマとした、第一回 ASEAN+3 石油備蓄ロードマップワークショップへの取組に感謝の意を表し、また韓国の通商産業資源部による素晴らしいおもてなしに感謝した。大臣は、アセアン各国に対し、+3 各国や国際エネルギー機関(IEA)の必要に応じたサポートや援助のもと、各国の石油備蓄ロードマップの着実な実行を促した。
7. 大臣は、石炭が地域の主要な燃料源であることを認識し、高効率火力発電や低品位炭の高品位化技術、炭素回収貯留(CCS)、コークス製造、石炭ガス化、石炭液化などのクリーンコール技術(CCTs)に関する協力プログラムの発展や地域の産業発展にむけ、さらなる取り組みのステップアップへの連帯した呼び掛けを強調した。大臣は、緊密な協力関係を育み、クリーンコール利用に関する積極的な協力を促進するためには、+3 各国の具体的な関与が、ASEAN 石炭フォーラム(AFOC)の今後の活動に貢献することを表明した。
8. 大臣は、ASEAN+3 各国間の情報共有を強化に向け、政策研究、分析をサポートする人材育成プログラムの実施における、ACE と日本エネルギー経済研究所(IEEJ)の継続的な協力の必要性を表明した。大臣は、緊急時対応への準備や石油供給セキュリティーへの潜在的な制度的障壁の特定を目的とした、ACE と IEEJ による、石油製品品質・仕様の新たな調査の開始を留意した。

石油市場・天然ガス

9. 大臣は、極めて不安定な石油価格が経済の不安定性の原因となりうることに留意し、石油市場の透明な機能性の推進が必要であることを認識し、共同機関データニシアティブ(JODI)への継続的なサポートを表明した。大臣は、世界市場における不安定な石油価格への対応策に関して、更なる情報共有と交換を行うことをASEAN+3 各国に促した。大臣はまた、考える地政学上のリスクに起因する価格の不安定性と石油供給の不確実性への対処を探求する際に得た経験や教訓を共有することを各国に促した。

10. 天然ガスは世界的な燃料ミックスにおいて、ますます重要な役割を果たすという見解のもと、大臣は、民間の参画の増加・促進により、特に LNG、非在来型ガスといった、天然ガスに関する協力を強化することに合意した。大臣は、また、2013年3月13-14日に第2回石油市場・天然ガスフォーラムおよび第2回 ASEAN+3 石油市場・天然ガスビジネス対話が、韓国 インチョンにて開催されたことを留意した。

再生可能エネルギー、省エネルギー

11. 大臣は、地域のエネルギー原単位を 2015 年までに 2005 年比で 8%削減し、地域の再生可能エネルギーを 2015 年までに総設備電源容量の 15%とする ASEAN の期待目標の達成に向けて、順調に進捗していることに留意した。大臣は、風力、太陽光、水力、原子力や低炭素タウンに関し、政策や技術交換、ベストプラクティスの共有への協力を促進する、中国による新エネルギーの持続的な発展に関する新たなイニシアティブを歓迎した。大臣は、CDM プログラムの進捗を認識し、新たな取組名称のである ASEAN+3 緩和プログラム協力を支持し、新再生可能エネルギー・省エネルギーフォーラムのリードしたことについて韓国に感謝の意を表明した。
12. 大臣は、省エネルギーセンター (ECCJ) と ACE による、ECAP (AJEEP 活動下の省エネワークショップ) を含む、新たなスキームである日アセアン省エネパートナーシッププログラム (AJEEP) の順調な開始を認識し、また、域内の持続可能なエネルギー開発の進展を目的とした、これらの新たなプログラムの継続的な実施の重要性を留意した。
13. 大臣は、新しく、革新的なソリューションが、将来のエネルギー需要を満たす要素の一つであることを認識し、韓国と日本による、スマートグリッド技術への知見や計画の情報共有を感謝の意を表明した。大臣は、ASEAN+3 各国に対し、エネルギーの持続可能性における革新的な手法の展開の加速に向けた、より多くの民間セクターが参画することによる協同的パートナーシップの強化のため、再生可能や省エネルギーに関する、フィードインタリフ、グリーンビルディングや革新的なファイナンススキーム、政策手法を議論するラウンドテーブルやワークショップの開催を促した。

次期会合

14. 大臣は、第 11 回 ASEAN+3 エネルギー大臣会合のため、2014 年ラオスで再会することに合意した。
15. 大臣は、インドネシア政府と国民による第 10 回 ASEAN+3 エネルギー大臣会合のための温かい歓迎と素晴らしいアレンジに謝意を表した。